

# サンカクフジツボ成育調査

山内弘子

## 目 的

2019年夏季～秋季にサンカクフジツボがホタテガイに多量に付着した。サンカクフジツボは冬になると剥がれ落ちるまたはへい死するという漁業者情報があったことから、サンカクフジツボのへい死時期について調べる。

## 材料と方法

2019年9月27日に久栗坂実験漁場で目合い3分のパールネット（10段）に2019年産ホタテガイを15枚/段、40枚/段で収容し、水深45m、幹綱水深15mの施設に垂下した。2019年12月から2020年5月にかけて5日と20日を基準日として15枚/段、40枚/段収容したそれぞれのホタテガイ30個体に付着したサンカクフジツボの生存個体、へい死個体を計数し、サンカクフジツボのへい死率を求めた。

## 結果と考察

15枚/段、40枚/段で収容したホタテガイに付着したサンカクフジツボのへい死率を表1、図1に示した。

15枚/段で収容したホタテガイに付着したサンカクフジツボのへい死率は、12月9日から翌年の4月21日まで0.0～9.8%と低い値に留まっていたが、5月8日には15.6%、5月13日には27.2%と著しく増加した。40枚/段で収容したサンカクフジツボのへい死率は、12月9日から翌年の3月19日まで0.0～11.4%であったが、それ以降は9.1～24.3%と増加した。また、へい死率は15枚/段での収容より40枚/段での収容が高い傾向が見られた。

耳吊り作業は例年1～4月に行われるが、①最盛期の2～3月におけるサンカクフジツボのへい死率は15枚/段で3.1～6.8%、40枚/段で3.5～11.4%と低い値であったこと、②素手ではサンカクフジツボが剥がれ落ちなかったことから、耳吊り作業に支障をきたすサンカクフジツボは除去機器を用いて剥離する必要がある。

2019年12月1日から2020年6月1日までの陸奥湾漁海況自動観測ブイ（青森）15m層の水温と1985～2019年の15m層の水温の平均値（以下、平年値）を図2に示した。試験期間中の水溫は平年値よりかなり高めに推移したことから、低水溫の場合にも同じ結果になるかを確認する必要がある。

表 1. サンカクフジツボのへい死率

調査月日	へい死率 (%)	
	15枚収容	40枚収容
12月9日	0.0	0.0
12月23日	1.5	0.9
1月7日	3.1	7.7
1月23日	6.8	9.2
2月3日	4.7	3.5
2月20日	5.0	6.3
3月5日	4.5	11.4
3月19日	5.8	9.6
4月7日	9.8	20.0
4月21日	6.5	9.1
5月8日	15.6	24.3
5月13日	27.2	17.8

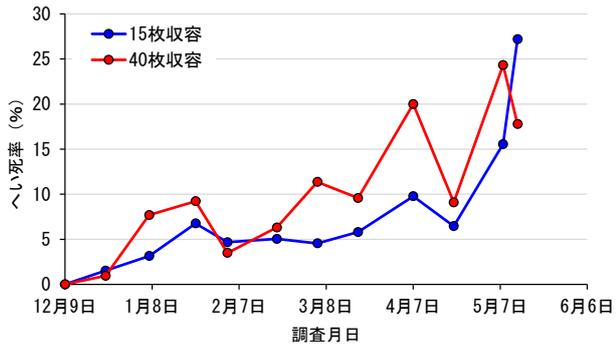


図 1. サンカクフジボのへい死率の推移



図 2. 青森バイ 15m 層の水温の推移